

ナガエミクリ ミクリ科 *Sparganium erectum*

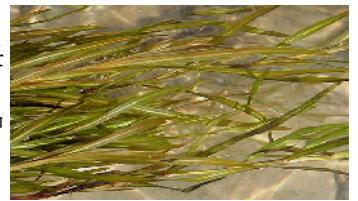
石川県レッドデータブック「絶滅危惧Ⅱ類」

浅い水中に生える多年草の抽水植物。貴重種。水底の土中に地下茎があり、茎は 70～80cm ぐらいの大きさになります。根生し、茎より高くなります。6～8月に花穂を生じ、枝分かれしたあと、各枝の上部に雄花、下部に白い毛玉のような雌花がつきます。この花が、クリの実に見えることから、この名前がつけました。安産川では豊富に繁殖している。



ヤナギモ ヒルムシロ科 *Potamogeton oxyphyllus*

ヤナギモは全国に分布する常緑の水草。浅い小川や河川などに生育している。葉は細長く、長さ 5～12cm あり、すべて沈水葉である。葉が細く、浮葉を形成しない点などは、水の流れが比較的速い場所における生育に適している。安産川では比較的少なく、水中ではエビモと区別がしにくい。



ホザキノフサモ アリノトウグサ科 *Myriophyllum spicatum* L.

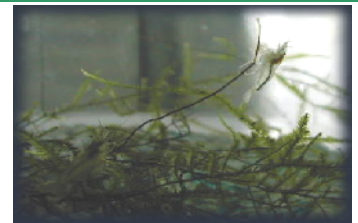
石川県レッドデータブック「絶滅危惧Ⅱ類」

フサモとホザキノフサモは、ともにアリノトウグサ科フサモ属の水草で、池や沼に見られます。水中での様子はよく似ていますが、花をつけるために水上に出す茎につく葉の様子が違います。フサモの葉はやや大きくて多少羽裂しているのに対して、ホザキノフサモの葉はごく小さくて裂けていません。安産川では比較的豊富に生息しています。



シミズゴケ ムクムクゴケ科 *Trichocolea Tomentella* (Ehrh) Dumort

ムクムクシミズゴケとも呼ばれ、山地の湿った岩や清流、湧き水のある水温の低い川や池などに生えている。流れのある場所より止め水の場所がより繁殖しやすい。安産川では湧き水のあるところに主に繁殖している。トミヨにとっては巣作りの材料にし易く、また生まれたばかりの稚魚の隠れ家に適している。



エビモ ヒルムシロ科 *Potamogeton crispus*

石川県レッドデータブック「絶滅危惧Ⅱ類」

日本全国の池や川に最も広く分布する、多年生の沈水植物。霞ヶ浦全域に分布します。地中をほう地下茎は、一節おきに茎をだし、水中で茎は枝分かれします。夏のはじめ、水面に花穂をだし、水中茎の先端に硬い殖芽をつくります。殖芽は脱落し、水に運ばれて分散、秋には発芽します。安産川では生息数が極端に少ない。



バイカモ キンポウゲ科 *Ranunculus nipponicus*

石川県レッドデータブック「絶滅危惧Ⅰ類」

冷たい流れのある川などで群生している多年草です。春から秋にかけて白い小さな花を次々に咲かせます。濃い緑色の葉はどんどん分裂し川の流れに沿って 1 m も伸びます。この草は止水では上手く育たず、特に水槽では水流のあるところに植えても難しい草です。山間の冷たい清流を好むようです。バイカモは漢字で梅花藻と書き梅の花に似た花が咲くことからきています。安産川ではほとんど見られず絶滅寸前です。



コカナダモ トチカガミ科 *Elodea nuttalli* St. John

北海道を除く湖沼、池、川などに群生する沈水性の多年草。北米原産の帰化植物で、水質汚濁、低温に耐え、繁殖力旺盛。クロモに似るが、一般に輪生葉が少ないことと、葉は緑褐色でねじれていることで区別がつく。花期は 5～10 月。安産川で近年大繁殖し、バイカモなど他の日本固有種が危機に落ち入っている。



セリ セリ科 *Oenanthe javanica*

北半球一帯とオーストラリアに広く分布している。湿地やあぜ道、休耕田など土壌水分の多い場所に自生し、半ば水につかっていることもある湿地性植物です。高さは 30cm ほど。茎は泥の中や表面を横に這い、あちこちから葉を伸ばす。葉は二回羽状複葉、小葉は菱形様。全体に柔らかく、黄緑色であるが冬には赤っぽく色づくこともある。花期は 7～8 月。やや高く茎を伸ばし、その先端に傘状花序をつける。個々の花は小さく、花卉も見えないほどであるが、まとまった姿は白く、楚々として美しい。

